

日本アプライドスポーツ科学会 第1回学会大会 報告

大会報告

佐藤 秀明 (日本大学法学部)

日時：2022年1月29日(土) 9時30分～17時30分

※コンテンツのオンライン配信 2022年1月23日(日)～29日(土)

開催形態：オンライン (Zoom)

参加総数：正会員・非会員・学生延べ205名

この度、日本アプライドスポーツ科学会第1回学会大会は多くの皆様にご参加いただき、大禍なく無事に開催することができました。簡単ではありますが、大会の報告をいたします。

今回は、新型コロナ禍の中、オンライン (Zoom) での開催となりました。プログラムは、「特別講演」・「シンポジウム」・「一般発表 (口頭, ポスター)」です。

特別講演は菊 幸一氏 (筑波大学) に「我が国におけるスポーツと政策—「東京2020」から何を学ぶのか?—」のテーマでご講演いただきました。スポーツに関わる様々な視点での知見をご教示いただき、東京2020大会後のスポーツの価値や意義を考える貴重な機会になったのではないかと思います。シンポジウムは「スポーツの実践現場と研究の融合に向けたエビデンス・ベースド・アプローチ—東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるアスリートへの支援—」をテーマに、原 怜来氏 (日本大学スポーツ科学部)、高野 大樹氏 (慶應義塾大学陸上競技部コーチ) をシンポジストとしてお迎えし、東京2020大会に向けた取り組みについて話題提供をいただきました。スポーツ科学と実践現場の融合を行う際の体制構築やアスリート支援における様々なアイデアなど、今後のスポーツ発展に寄与する貴重な知見であったと感じました。

一般発表は、発表演題数101件 (口頭発表6演題、ポスター発表95演題) と大変多くの研究発表がありました。口頭発表では、コロナ禍におけるスポーツ活動を様々な視点から捉えた研究がある一方で、従前のスポーツ選手主体の研究から視点を変え、指導者やコー

チなどの支援者の視点とするなど研究の広がりを強く感じる機会となりました。また、ポスター発表では、普段とは異なる場に戸惑いながらも、研究成果の発表や質問、大学あるいは学部の枠を超えて交流する姿から、本学会が目的とする様々な立場の人が集うことを目の当たりにし、大変感慨深いものでした。

本大会では、発表された演題から研究方法や内容等から、学会大会賞を複数件選出しました。下記に受賞演題を示します。

次回に向けて、様々な立場の方々が集う場となるようより良い大会作りを進めてまいります。皆様の積極的な参加をお待ちしております。ご参加していただいた皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

学会大会賞

【口頭発表】

川井良介・神田智浩「剣道の対人稽古における面マスクの着用が剣道鍛錬者の身体に与える影響」
赤坂芳生・渋谷崇行「コーチの怒り感情が発生する場面状況の特定：尺度作成に向けた項目収集」

【ポスター発表】

山口祐菜・近藤克之「スポーツ経験のある大学生のLGBTQ+に関する意識調査」
松本百香・水落文夫「運動部活動における部員の動機づけが適応感に及ぼす影響：良好な人間関係に着目して」
大井智裕・本道慎吾「男子小学生の疾走における加速局面のパフォーマンスと各種体力要素との関係性に

ついて」

浅野すみれ・水落文夫「指導者の言動が選手の内発的
動機づけに及ぼす影響」

堤 勇太・水落文夫「野球におけるイップス傾向を自
覚する選手の動機づけ雰囲気に関する研究」

高野 修・大野達哉「主体性の向上を目的とした体育
授業が学生の自己効力感に及ぼす影響について：生
涯スポーツを意識した授業づくり」

藤田慎也・水落文夫「スポーツにおける故意的な強迫
行為の有用性」

岩河香織・武智茉愛・本道慎吾「女子バスケットボー

ル選手におけるシュート成功率の変化について～
シュートの角度と距離に着目して～」

関根光希・小林佳奈・山崎奏穂・佐藤佑介「紙に価値
はある—紙面とタブレット端末で雑誌を閲覧した際
の注視時間の違い—」

高橋まりあ・苅部竜也・今泉颯人・本道慎吾「サッ
カーゴールキーパーにおけるゴロボールに対するダ
イビング動作について～性差に着目して～」

藤澤虎太郎・飯田翔大・小林里緒・深見将志「観客が
及ぼす心理的疲労—観衆の性差要因に着目して—」